

残留放射線隠ぺいを告発

ビキニデー・in高知 核被災フォーラム

米軍が太平洋マーシャル諸島ビキニ環礁で水爆実験を行ってから70年。多くのマグロ船が被災した高知県で「ビキニデーin高知2024」核被災フォーラム（11、12日）が開かれました。シンポジウムで、米軍が残留放射線の人体への影響について研究していたことや、被害者が救済されず、放置されている実態が語られました。パネリストの発言を紹介します。



ビキニデーin高知の全体集会11日、高知市

米国は人体実験的研究

奈良大学 高橋博子教授

米国は、広島・長崎への原爆投下前の1943年には、軍事研究として放射性物質を使用した兵器、内部被ばく、残留放射線について検証していること。マンハッタン計画の一環として43年に「放射性物質毒性小委員会」を発足させ、「放射線兵器」を開発し、すでにフルトニウムを入



晩発障害考慮せぬ政府

船員保険訴訟内藤雅義弁護士

現在、核実験被災船員被害について、損失補償請求訴訟が高知で、東京では全国健康保険協会に対する船員保険訴訟が行われています。東京で行われている船員保険訴訟の争点



貧血など被爆に起因も

福島医療生協齋藤紀医師

米軍の軍事研究目的で設立されたABCは、被爆線量を重視した疫学調査を行い、75年に放射線に引き継がれました。第13光栄丸はアラバ



第2幸成丸に乗っていた

桑野浩さん



私が乗っていた第2幸成丸は水爆実験が行われた海域で1カ月くらい操業し、放射能の影響を受けていたことになり。そのことを知らされず、仕事をしていたわけで、あとから知ってがくせんとしました。ビキニ被ばくしたという思いは強

ビキニ被ばく船員訴訟原告団長

下本節子さん



3月、マーシャルの首都マジュロで開かれた核被害者追悼デーに参加しました。この訪問で、ロンゲラップ環礁から移住した。流産を何度もしてきました。

実験場から約1200地点で約2週間操業し、神奈川県三崎港に戻りました。乗組員は国立療養所久里浜病院で検査を3回受けています。医学的所見に域の人には貧血と白血球増加がありました。